

記者からの質問等（2件：約13分）

Q：山梨日日新聞

6次化拠点整備事業の方針が決まって初めての予算計上になるが、この位置づけについて教えてください。

A：総合政策部長

この予算については、土地の図面作成が主な内容です。現況平面図、公図等の求積図及び企業誘致の広告物の作成です。

Q：山梨放送

6次化拠点整備事業とあるのですが、6次化拠点整備をもう一度するのですか。

A：総合政策部長

前回は6次化拠点整備事業の出発点でありました。開発ができない地域を新たに開発できる用途にするための特別な方法で農振を除外したのが27号計画です。それが農業の振興に供する施設ということで市の方針を定めています。今後も27号計画は存在するので、6次化拠点整備に向け、計画に沿った用途で企業募集をしていく。

Q：山梨放送

一度倒産させて手放した土地を買い戻すのに矛盾はないのか。

A：市長

基本的に27号計画に縛られて開発をしていかなければならない。検討委員会で、民設、民営でいくべきだとの答申をいただいている。それにそって企業募集を行っていくのだが、地権者が多いため市が一括管理して賃借を行う。また、安定的に管理するため将来的には取得していく。

Q：山梨放送

南アルプスプロデュースを潰す前に判断できたのではないか

A：市長

潰したわけではない、資金が無くなり、潰れてしまった。どこからもお金が借りられなくなってしまった。本来であれば、会社が自己破産手続きをしなければならなかったが、お金が無く自己破産もできなくなった。そのため資産保全のため市が代わって申請したので、その時点で市が土地をかうという話は無理であった。

Q：山梨放送

6次化拠点整備事業の最終的なビジョンは

A：市長

中部横断道、リニアの駅にも近いので首都圏からの移住定住が増える要素が高まってくるなかで、非常に優良な場所である。市の将来のために開発のための措置をとっていかなければならない。しかし27号計画の制約もあるので、制約の枠を広げてもらえるよう国県に働きかけをおこない開発をしていき移住定住につなげていきたい。それがうまくいけば南アルプス市の人口を増やしていけるのではないかと考えている。

Q：山梨放送

具体的どういうものができるのでしょうか

A：市長

まだ、具体的にはなっていない。ただ6次化に資するものである。

以上